

成取締役最
株の西川幸
ノロジーズ
パワーテク
バイオマス
小片野町の
から携わる
構想段階
いる。

脱炭素電源
開発事業と
して期待が
寄せられて
いる。

松阪市小片野町のPA
ワーエイド三重合同会
社(職務執行者)西川
弘純バイオマスパワ
テクノロジーズ(株)取締
役最高技術責任者)は、
同市木の郷町で計画す
る木材・製造業生産副
産物を燃料とするパ
ワーエイド三重「シン・
バイオマス松阪発電
所」の建設・運営を目的
に設立された。再生可
能エネルギー固定価格
買い取り制度(FIT)
に頼らないNON-F
IT型事業で、新たな

FITに頼らない発電所誕生へ

パワーエイド三重合同会社(小片野町)

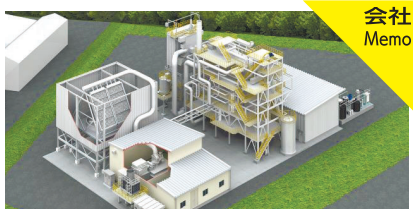
市内で着工、ホクトの廃菌床など活用

高執行責任者(COO)は、
計画当初から「FITあり
きの発電から脱却すると
決めていたと明かす。FIT
に頼らない事業を考えて
いた頃、きのこ生産・販売大
手のホクト(株)から、同セン

ターで1日当たり50〜60ト
排出される大量の廃菌床を
燃料として活用できないか
打診を受けて燃焼試験を実
施。活用にめどが立ち会社
設立に至った。
事業には日本アジア投資



昨年10月17日の起工式であい
さつする西川職務執行者



会社
Memo

(株)長谷工コーポレー
ション、(株)BMEエコモ、(株)
クスポート、JA三井リー
ズ(株)などが出資した。
施設では、多気町西山に
あるホクトの三重きのこセ
ンターから排出される廃菌
床(使用済みの培地)や、主
に中部圏から排出される木
質系廃材やRPF(紙くず
と廃プラスチック)などを
混焼して発電する。運転開
始は2025(令和7)年1
月の予定。製造業由来の副
産物に着目した同社は、「シ
ン・バイオマス」と定義し、
昨年5月に特許を取得し
た。
西川COOは、「地方創生
型カーボンニュートラル新
産業として脱炭素社会に貢
献していく」と話す。

パワーエイド三重合
同会社は、国内では珍
しい合同会社として2
021(令和3)年7月
に設立。日本アジア投
資(株)など5社が出資者
となり、三重エネウッ
ド(株)やホクト(株)、バイ
オマスパワーテクノロ
ジーズ(株)など6社が社
員となっている。